



児童生徒の「わからない」を「わかった！」にするために ～学力定着状況確認テストの結果を活用して年度末の取組を実践しよう！～

©岡山県「ももっち」

3月も中旬に入り、今年度も残りわずかとなりました。コロナ対策や臨時休業に伴う学力保障など例年とは違う対応をしていただきながら、児童生徒の様子を丁寧に見取り、きめ細やかな指導に御尽力いただきました。

さて、秋から冬にかけて実施した学力定着状況確認テストは、そのような状況下における児童生徒一人一人の定着状況を把握・分析するためのものですが、自校の結果はいかがでしたか。実施したテスト結果から、年度末の取組を実践してみませんか。

確認テストから見える課題



情報提供いただいた市町村のデータを、集計したものを以下に示します。

「R2確認テスト集計ツール」より

〈小学5年算数〉

〈小学6年算数〉

問題の概要	正答率				関連問題等
	貴校	全国(公立)	優先順位	ベンチマーク	
1(1) $0.75 + 0.9$ を計算する	71.7	71.3	13		H24A1(3)
1(2) 9.3×0.8 を計算する	73.8	83.7	4	-9.9	H19A1(4) H21A1(4) H22A1(2) H24A1(4)
1(3) $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	56.0	66.6	3	-10.6	H20A1(5) H21A1(6) H22A1(6) H26A1(5)

問題の概要	正答率(%)				関連問題等
	貴校	全国(公立)	優先順位	ベンチマーク	
1(1) $6.79 - 0.8$ を計算する	81.8	69.5	13	12.3	H22A1(4) H24A1(3) H25A1(2) H26A1(3)
1(2) $18 \div 0.9$ を計算する	82.5	77.7	9	4.8	H22A1(2) H23A1(3) H24A1(4) H25A1(3)
1(3) $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	63.4	66.6	1	-3.2	H20A1(5) H21A1(6) H22A1(6) H26A1(5)

小学校算数

- 9.3×0.8
(小数の乗法)
- $6 + 0.5 \times 2$
(四則混合の計算) など

基本的な計算の定着に課題が見られました。

中学校数学

- $2 \times (-5^2)$
(指数を含む正の数、負の数の計算)
- $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$
(連立二元一次方程式) など

〈中学1年数学〉

〈中学2年数学〉

問題の概要	正答率				関連問題等
	貴校	全国(公立)	優先順位	ベンチマーク	
1(1) 数直線上の点が表示負の整数の値を読み取る	92.1	94.6	3	-2.5	H24A1(3)
1(2) $2 \times (-5^2)$ を計算する	54.6	68.9	1	-14.3	H19A1(3) H20A1(3) H21A1(2)
2(1) ある数を3で割ると、商がaで余りが21になるとき、ある数をaを用いた式で表す	30.1	32.2	5	-2.1	H25A2(3) H27A2(2)

問題の概要	正答率				関連問題等
	貴校	全国(公立)	優先順位	ベンチマーク	
1 空欄が負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ	70.0	69.3	4	0.7	
2 $2 \times (-5^2)$ を計算する	65.2	68.9	2	-3.7	H19A1(3) H20A1(3) H21A1(2)
3 連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	63.2	70.1	1	-6.9	H26A3(4) H27A3(4) H29A3(4) H30A3(3)

皆さんの学校では、どのような課題が見えましたか。上に紹介している集計ツール（県教委作成）を活用すると、過去の全国調査結果との比較ができます。

©岡山県「うらっち」

つまずきの確実な解消に向けて

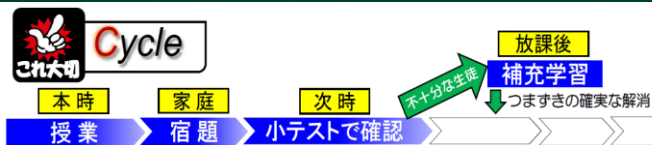
重要! 授業で、課題のあった問題を取り上げましょう。

宿題などの家庭学習に、つなげましょう。

小テスト等で学習内容の定着を確認しましょう。

補充学習などの時間を設定しましょう。

重要! 年度内に、つまずきの解消を図りましょう。



授業とのつながり

具体的にどのような取組をしますか。

「家庭学習のスタンダード(増補版)」より

どうしても、年度末は、学習内容を終わらせることに意識がいきがちですが、児童生徒に学習内容を確実に定着させることが大切です。そのためにも、**つまずきがあり、困っている児童生徒への手立て**を、学年単位や教科単位、また学校全体で考え、次年度につまずきを持ち越すことがないように、最後まで取組を進めていく必要があります。児童生徒の「わからない」を「わかった！」にするために、年度内にできること、春休みに取り組ませることも考えましょう。

